（仮称）史跡センター実施設計について

はじめに

小牧山は永禄６年（1563 年）に織田信長が初めて自らの手で石垣を用いた居城を築き、また天正１２年（1584 年）の小牧・長久手の合戦では織田信雄・徳川家康連合軍が信長の城に大規模な改造を加えて陣城とし、羽柴秀吉軍と対峙した地でもあります。江戸時代には尾張徳川家により入山が禁止されるなど厳重に保護されたことにより、小牧・長久手の合戦時に築かれた土塁や堀、曲輪などが良好な状態で残されたこともあり、昭和２年に国の史跡に指定されました。

戦後、市有地不足の問題から小牧山内に小牧中学校や市役所等の公共施設が建設されましたが、本来は史跡の範囲内に建物などを建てることについては大きな制約があります。このため、市では小牧中学校や市役所本庁舎を史跡外へ移転させるなど、織田信長が築き、小牧・長久手の合戦時に改修が加えられた小牧山城本来の姿に戻す史跡整備を進めています。

小牧山の豊かな自然や歴史的価値、魅力を来館者に紹介するガイダンス施設である（仮称）史跡センターについて、平成２６年度に策定した『（仮称）史跡センター整備基本構想』の位置付けに基づき、平成２７年度には建築、展示に係る基本設計及び（仮称）史跡センターの周辺史跡整備に係る基本計画を作成し、平成２８年度は建築、展示、周辺史跡整備の実施設計を行いました。その建設地は史跡内の建設に制約がある中で文化庁とも協議を重ねた結果、中学校校舎の建設により遺構が残っていない、小牧山の南麓の堀の内体育施設跡地としました。

（仮称）史跡センターは、近年の発掘調査で明らかとなった織田信長が築いた石垣や城下町、小牧・長久手の合戦で築かれた砦など、小牧山を取り巻く歴史を、模型や映像を多用して分かりやすく紹介する常設展示のほか、企画展示やワークショップ、講演会や講座を行うスペースを設けるなど、小牧山に関する最新の情報を来館者にお伝えする施設です。

実施設計の概要

＜建築実施設計＞

●建　物　概　要：鉄骨造平屋建て　延べ床面積 約 1,000 ㎡

●外観コンセプト：小牧山の豊かな自然や歴史的価値、魅力を紹介するガイダンス施設です。史跡地内に建設することから、建物の建設位置にかつて存在したと考えられる小牧山城の曲輪を、建物の形状や石目地などで表現します。

●主な部屋と用途：シアターや常設展示室には、映像等を活用した資料や石垣の原寸大模型などを展示します。
企画展示・資料室や収蔵品展示室は、企画展示やワークショップを行うなど、フレキシブルに利活用ができる部屋です。
レクチャールームは、映像による団体来館者への導入説明やワークショップなどに利用します。

＜展示実施設計＞

●展示の基本理念：小牧山の史跡としての価値、情報を発信します。
小牧山を核とする歴史や文化、自然を紹介します。

●展示のテーマ：戦国・織豊時代の城郭やまちづくり、織田信長が初めて手がけた城と町、小牧・長久手の合戦の陣城・砦群
緑豊かな小牧山の貴重な自然

●展示の基本方針：小牧山の多様性を扱います。展示の可変性を重視し、更新が容易な手法によりリピーターを増やしていきます。
小中学生にも分かりやすい展示とし、体感的に学べる内容とします。
展示物のインパクトを重視し、来場者の興味を喚起し、印象に残る展示内容とします。

＜周辺史跡整備実施設計＞

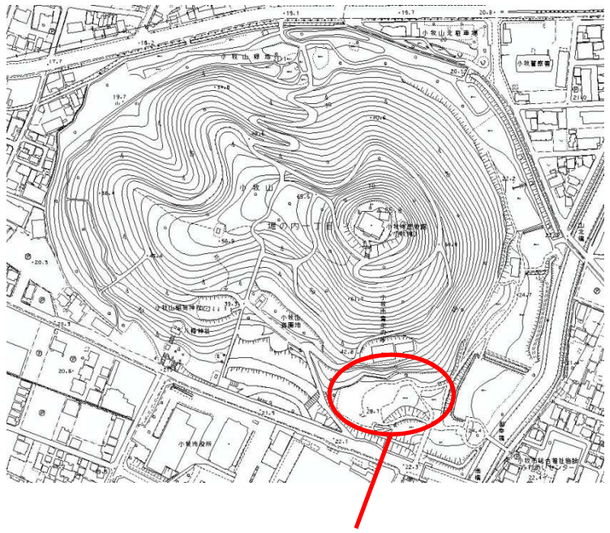
●対　象　面　積：9,546 ㎡

●整備のコンセプト：かつて存在したと推測される小牧山城の遺構に配慮した上で、周辺の自然環境と調和するよう、（仮称）史跡センター周辺の整備を行います。

●整備の内容：土塁や曲輪などの土地造成、（仮称）史跡センター建設地北側の急傾斜地ののり面補強、敷地内のベンチや案内看板、電気設備などの整備、植栽等を行います。

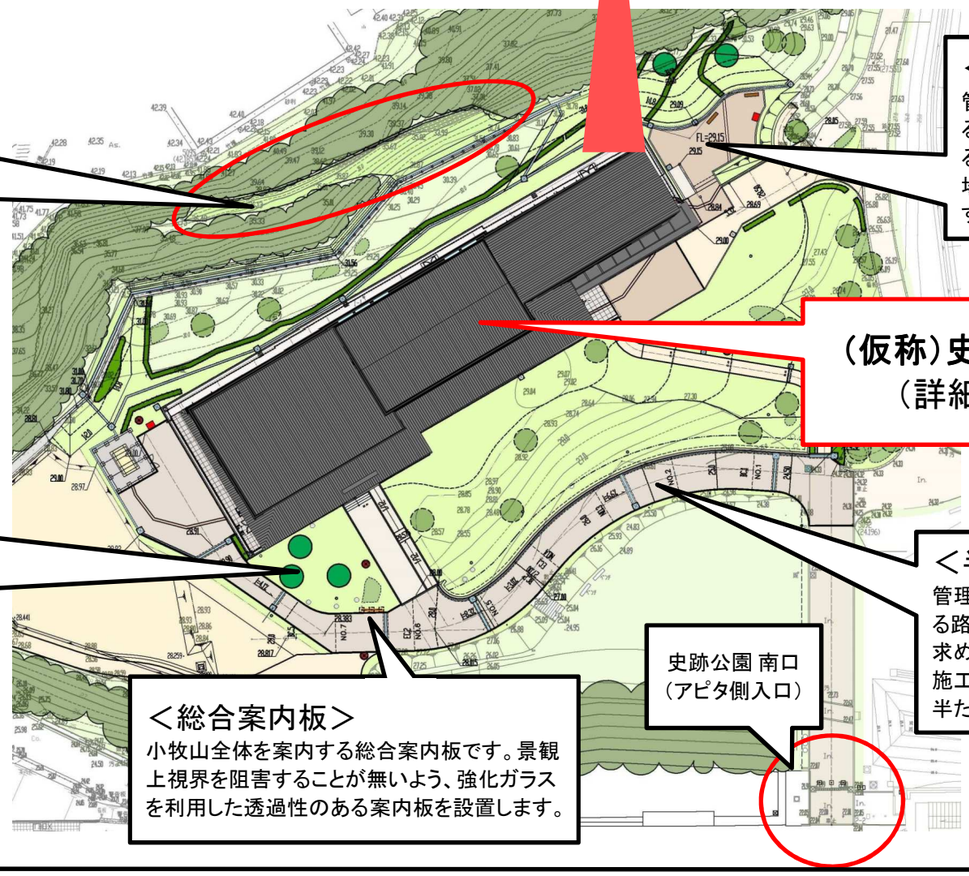
●特徴的な事項：園路等の舗装は、場所ごとの用途に応じた施工方法を採用します。
植栽（低木）により、曲輪の範囲を表現します。

（仮称）史跡センター　建設予定地



（仮称）史跡センター　外観イメージ

（仮称）史跡センター及び周辺整備イメージ



＜のり面補強＞
既存の急傾斜地に対して、崩落や倒木等を防止するための補強を行います。施工には、現在の地面を削ることなく施工することができる、ジオファイバー工法を採用します。

＜石舗装＞
管理車両が通る、人が集まるなど、衝撃、磨耗に対する高い耐久性が求められる場所には石舗装を採用します。

（仮称）史跡センター
（詳細はP2）

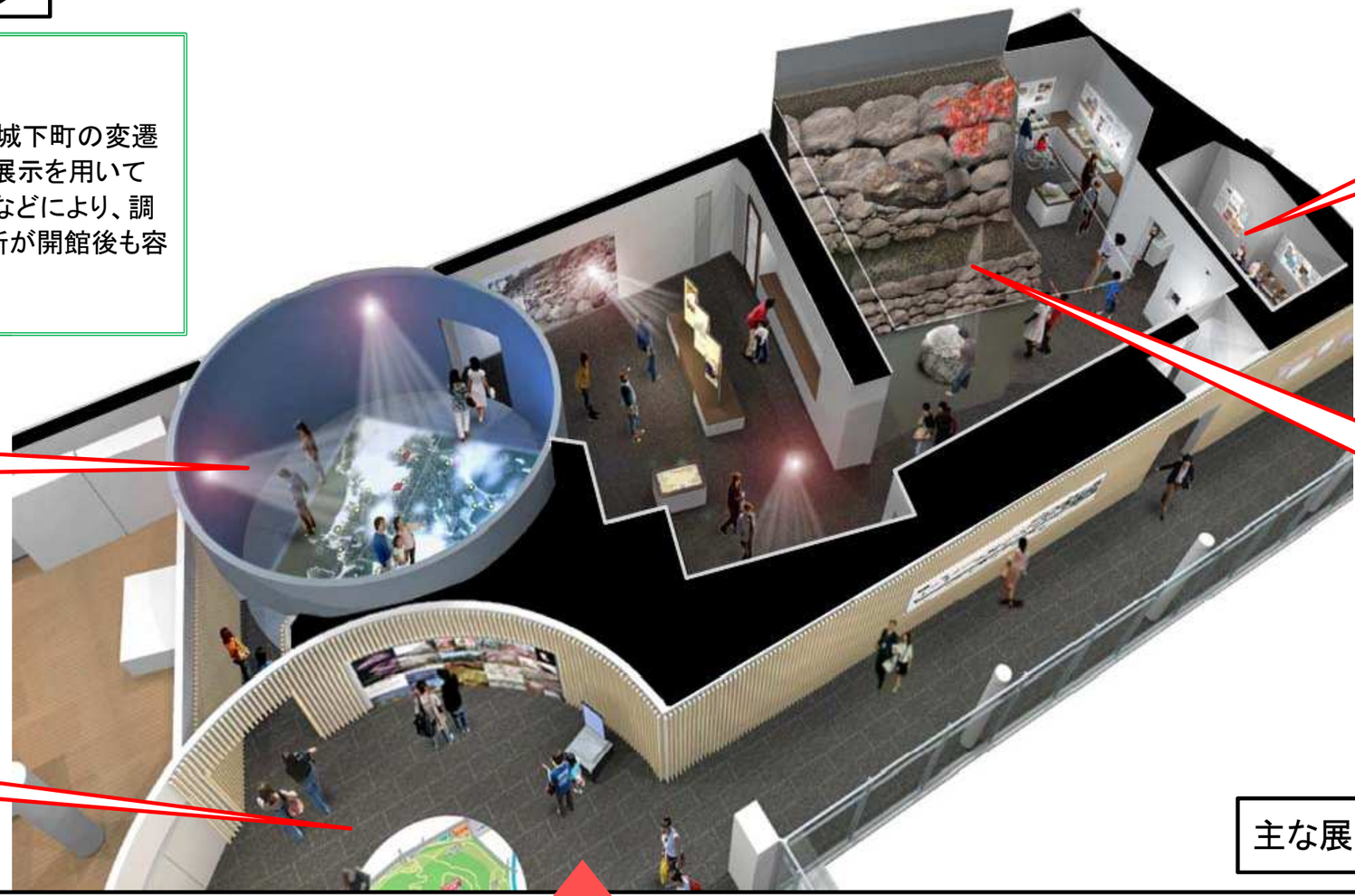
＜植栽＞
高木はサクラとモミジを要所に植える予定です。
低木は安全上、園路と芝生地の境界を明確にするため、また、曲輪範囲を表現するためのツールとして利用します。

＜半たわみ性舗装＞
管理車両や緊急車両が通行する路面で、耐荷重性、耐久性が求められるとともに、斜面での施工性が求められる場所には半たわみ性舗装を採用します。

＜総合案内板＞
小牧山全体を案内する総合案内板です。景観上視界を阻害することが無いよう、強化ガラスを利用した透過性のある案内板を設置します。

（仮称）史跡センター　展示イメージ

＜展示エリア＞
小牧山を中心とした歴史と人々、城や城下町の変遷などを模型、パネル、出土遺物、映像展示を用いて伝えます。模型に映像を投影することなどにより、調査成果をはじめ新規情報の反映、更新が開館後も容易にできるメリットがあります。

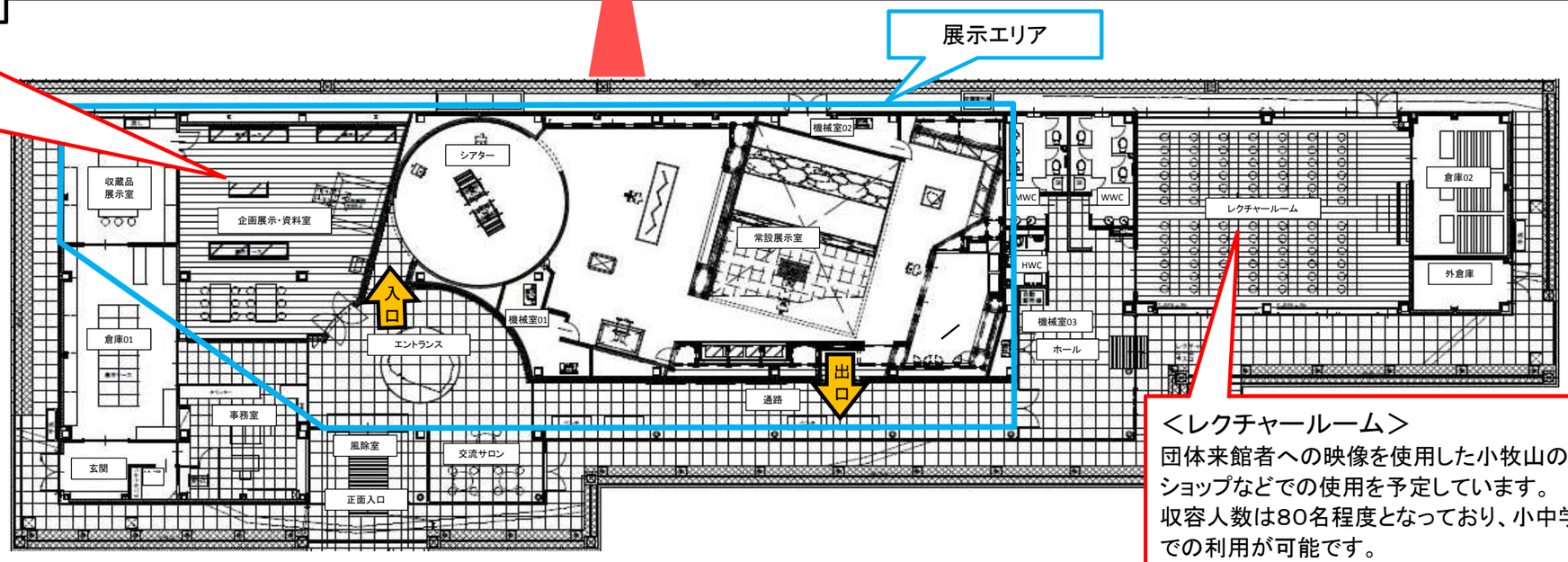


主な展示の詳細はP3を参照

（仮称）史跡センター　平面図

＜企画展示・資料室、
収蔵品展示室＞
・企画展示・資料室：
可動式の仕切りにより企画展示、ワークショップ、史跡ガイド研修・控室等多目的に活用する空間です。城郭の基本情報パネルや主郭の推定復元模型の展示とともに、発掘調査や整備状況の映像を投影することなどで、小牧山の「今」を伝えます。

・収蔵品展示室：
出土遺物の収蔵状況や発掘調査用具などを展示します。出土品の洗浄・接合体験や土器づくりなどワークショップにも対応できる空間です。



＜レクチャールーム＞
団体来館者への映像を使用した小牧山の説明やワークショップなどでの使用を予定しています。
収容人数は80名程度となっており、小中学校2クラス分での利用が可能です。

（仮称）史跡センター　展示詳細（画像はイメージ）

エントランス
床面の全体マップで、来館者に小牧山内の園路やトイレ、休憩施設、駐車場等の利用情報を提供します。施設入口正面にあたる壁面では、小牧山の四季や、動植物、地域のイベントの様子などを写真で紹介することで、小牧山の多彩な表情、魅力を伝えます。

城郭シアター
戦国時代の小牧山への導入部として、この先の展示への没入感を得られるような、印象的な映像表現を壁面と床面に展開します。映像は複数準備し、変更が可能です。

石垣模型（土の城から石の城へ）
小牧山山頂で確認された石垣の1・2段目を原寸大で再現した模型です。プロジェクションマッピング映像を模型に投影することで、石垣の現状や推定される築城当時の姿、石垣の構造等を学ぶことができます。

戦国プレイベース
「石を運ぶ」、「石を積む」など、小牧山城に関する事柄を体験的に学習できるコーナーです。

（仮称）史跡センター及び周辺整備完成予想図